

<気候変動対策について>

・ダボス会議における総理の演説で強調されたこと → (福田康夫 内閣総理大臣)

○加納時男君 続いて総理に伺いたいと思います。

この間ダボスに御出張いただきまして、お疲れさまでした。その総理のダボスにおける演説、三つポイントがあったと思うんですが、重点を置かれた一つが気候変動対策でございました。今日はその気候変動に絞って伺いたいと思います。

総理は、ダボスの演説の中でクールアース推進構想というのを示されました。ネーミングも非常にいいと思いますけど、それ私なりに理解しますと三つポイントがあって、一つはポスト京都議定書のフレームワーク、どんな構想でやっていく、全体構想、二つ目が国際的な環境協力、三つ目がイノベーションと、どれも全部非常に重要なポイントだったと思います。何といたってもポスト京都のフレームワークでは、すべての主要排出国の参加というのはもうこれは言わば譲れない線だというふうに我々も議論しているところでございますが、これもしっかり触れていただいたかと思いますが、この全体を通じまして総理が最も強調されたところは何でございましょうか。

○内閣総理大臣(福田康夫君) 加納委員も会議に出席をされて、熱心に御討議されたことと思っております。

この中で、今御指摘のクールアース推進構想というものを私申し上げました。そして、すべての主要排出国が参加できる枠組みづくり、そしてまた公平な目標設定に取り組むと、こういうことは極めて大事なわけございまして、私は申しましたのは、我が国として、主要排出国とともに今後の温室効果ガスの排出削減について国別総量目標を掲げて取り組む、こういうことを提案をいたしました。また、そういうG8に向けての決意というような形で表明をしたわけでありまして。

また、構想の中で、成長と環境の両立を実現してきた我が国自身の経験に基づいて、エネルギー効率を徹底的に高める努力をするということ、そして、世界全体で二〇二〇年までに三〇%のエネルギー効率の改善を世界が共有すること、これを提案いたしました。あわせて、我が国としては、大幅な排出削減に不可欠な革新的な技術開発、これを加速したいということ、そのために我が国としてもそれなりの研究開発投資をするということを申しました。そして、日本自身を低炭素社会に転換するための検討に着手したいと、こういうことも申しまして、低炭素社会づくりに向けた先導役を今後果たしていきたいと、このように思っているところでございます。

○加納時男君 ありがとうございます。総理が今おっしゃられたことは全部非常に重要なことだと思っております。これを、今結びでおっしゃった低炭素社会構築に向けて日本がスタートを切るというお話でございますので、どのようにスタートを切っていくのか、若干中身につきまして経済産業大臣、環境大臣に質問を、今の題に沿って質問させていただきたいと思っております。(別質問へ続く)